



10/13 赤十字防災ボランティアに、被災市町村の要請を受けて災害救援物資の搬送をしていただきました。



救うことを、つづける。日赤岩手県支部の活動 被災者に寄り添った活動を行っています。



10/17 日赤岩手県支部にボランティアセンターを開設し、赤十字防災ボランティアを県内被災地へ派遣しました。久慈市、釜石市、田野畑村、宮古市、普代村、山田町で家屋の土砂撤去、瓦礫処理、炊き出しなど被災者のニーズにより活動しています。



赤十字奉仕団が「ふれあい交流会」で魅せます！



赤十字奉仕団による被災地支援事業「ふれあい交流会」が各地で開催されています。奉仕団が得意とする、大鍋での炊き出しは、豚汁やカレーライスなど各地域ごとに特色があり、被災地でも好評でした。また、舞踊、手品、腹話術など演芸を披露し交流会をさらに盛り上げています。今流行の「ハーバリウム」の手作りにも挑戦！ビンの中に特殊な液体と植物を入れて完成した作品に皆さんご満悦でした。「ふれあい交流会」は令和2年度も実施する予定です。

令和元年度 国内義援金の取扱状況

義援金は“全額”被災された方々へ



お寄せいただいた義援金は全額が被災された方々のお手元に届けられます。手数料などを日本赤十字社がいただくことは一切ありません。皆さまからのあたたかいご支援に感謝申し上げます。今後とも引き続きのご協力をお願いいたします。

日赤岩手県支部への受付状況（令和元年12月31日現在）

名称	受付期間	件数	金額
東日本大震災義援金	H23. 3. 12～R 2. 3. 31	580件	535,238,911円
平成28年熊本地震災害義援金	H28. 4. 15～R 2. 3. 31	52件	19,547,626円
平成30年7月豪雨災害義援金	H30. 7. 10～R 2. 6. 30	21件	4,694,625円
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	H30. 9. 11～R 2. 3. 31	16件	2,238,822円
京都市伏見区で発生した放火事件に係る被害者義援金	R 1. 9. 9～R 1. 10. 31	1件	3,336円
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	R 1. 9. 18～R 2. 3. 31	1件	8,261円
令和元年台風第19号災害義援金	R 1. 10. 18～R 2. 3. 31	526件	236,146,748円

赤十字いわて

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

No.54
2020 冬季号

「トレセンで、いのちの尊さを学んだよ！」

青少年赤十字（JRC）指導者からお話を伺いました。 特集記事へ



リーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）で心肺蘇生法に取り組む生徒たち



日赤岩手県支部ではInstagramを始めました。ぜひ、フォローをお願いします。当支部ホームページをご覧ください。



Instagram
やっています！

日赤岩手県支部

検索



令和元年10月6日に発生した大型台風第19号は、12日に日本に上陸し、関東甲信地方と東北地方に猛威を振るいました。岩手県では12日未明から13日にかけて激しい雨や暴風となり甚大な被害をもたらしました。東日本大震災で被害を受けた沿岸部を中心に土砂災害や洪水で家屋の全壊や半壊のほか、三陸鉄道の線路が寸断されるなど、各地に大きな影響を及ぼしています。

10月16日～19日、日赤宮城県支部からの要請で、盛岡赤十字病院の医療スタッフによる救護班が宮城県丸森町で活動しました。巡回診療をはじめ、避難所のアセスメント（評価）や段ボールベッドの設置、環境整備を行いました。

令和元年台風第19号災害

記録的な大雨と暴風で、全国に被害が拡がりました。



青少年赤十字（JRC）指導者の先生からお話をいただきました。

「リーダーシップへの接近」

高校班センター長 石川 健

青少年赤十字事業のメインコンテンツとも言えるリーダーシップ・トレーニング・センター（以下、トレセン）は、夏休みに県内のJRC加盟校から総勢百名を超える小中高生を集めて行われる三日間の宿泊研修です。

スタッフとして子ども達を指導するのは現役の先生方ですが、ここでなされる指導は、学校でのそれとはだいぶ性質が異なります。研修中にスタッフから指示が出ることは、ほぼありません。研修プログラムは受付時に手渡されるガイドに記載されており、子ども達はそれをめくりながら一日を見通し、行動することになります。変更や追加連絡があっても、それは掲示版に貼り出されます。つまり、情報とは与えられるものではなく自ら取りに行くものであり、生活設計も自力で組み立てるものだという覚悟を、子ども達に求めているのです。これは、災害発生時において行政等から示される情報のみに頼っている、必ずしも自身の命を守れないという現実的な問題にも通底します。



石川先生は、30年以上「トレセン」に情熱を注いでいます。現在、田野畑中学校の校長として活躍されています。

三日間の研修を通じて、子ども達は少なからず失敗も経験します。スタッフは子ども達のつまずきが予想されても、軌道修正を促しはしません。また、悩み迷う様子が見られても、解答は示さずアドバイス程度にとどめます。これは、失敗とは行動を選択した結果であり、『No pain No gain』、つまり人は痛みの中でこそ学ぶものだというトレセンの指導理念によるものです。ゆえに、『No action No gain』、すなわち、「迷ったら動け」という合い言葉が、トレセンの空間を飛び交うことになります。



「トレセン」中高生のフィールドワーク振り返り（講評）。先生の深い話に生徒達は、行動する意味に気づき始めます。

その像にどこまで接近出来るかが、トレセンのメインテーマへと浮上するのです。目指すものは人それぞれですが、あえて理想をと問われれば、新たな自己を追求し続ける姿勢こそ、理想のリーダー像と言えるかもしれません。

付き合い慣れた学校の仲間の前では、なりたい自分、理想の自分を演じることなど中々出来るものではありません。それ以前に、多忙な日常生活において、自分自身をじっくり見つめ直す時間もなければ、判断や行動に迷う時間もないのが現実です。トレセンは、期間限定の人間関係の中で、理想を模索する舞台を提供する貴重な機会と言えます。

このような研修を可能ならしめるのは、スタッフの根気強く待つ姿勢だということを、最後に申し添えておきます。

岩手大学学生赤十字奉仕団メッチャ！頑張っています。～2019活動の軌跡～



3月

学生が自ら企画し、盛岡市大通りの街頭で東日本大震災と北海道胆振東部地震の災害義援金募集を行いました。



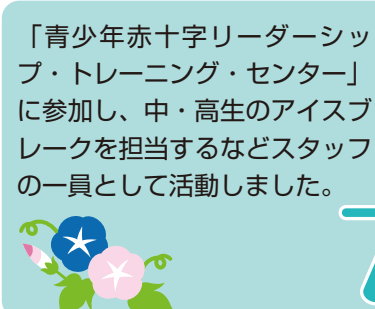
5月

「赤十字ふれあいフェスティバル」で、スタッフとして広報活動を行いイベントを盛り上げました。



6月

青年赤十字奉仕団第1ブロック（北海道・東北）協議会を盛岡市で開催し、他道県のメンバーと今年度の活動について活発な意見交換を行いました。



7月

「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」に参加し、中・高生のアイスブレイクを担当するなどスタッフの一員として活動しました。



9月

IBCラジオの番組ワイドステーションの「身近な赤十字」に生出演をし、奉仕団の活動や将来の夢を若者らしく、熱く語ってくれました。



8月

「岩手県学生サマー献血キャンペーン」を開催し、献血ルームメルシーとイオンモール盛岡南で献血の呼びかけをしました。



岩手大学不来方祭で赤十字のブースを出店し、救急法の講習、赤十字事業のパネル展示、台風第19号災害の義援金募集など行いました。

10月



第1ブロックの学生と「東日本大震災の被災者に対する支援」として、福島県南相馬市の復興公営住宅で生活されている被災者と交流しました。みんなでゲームや手作りの写真立てを作るなど被災者に寄り添った活動をしました。

このほかに、日赤岩手乳児院で子ども達のお世話や遊具の清掃など、日曜日にボランティア活動を行なっています。

